

小松「イケガミ」開発、2病院へ

医療者の助けに テント無償貸与



イケガミが無償で貸し出す陰圧テント
＝石川県小松市で(イケガミ提供)

新型コロナウイルスで国内最大規模の集団感染が発生した永寿総合病院(東京都台東区)などに、石川県小松市の建材メーカー「イケガミ」が、自社で開発した医療用陰圧テントや検温ゲートなど一式を無償貸与する。テントは発熱外来に利用できる。敷地内に設け、感染の「第二波」への備えとしてもらう。(青山直樹)

無償貸与は、池上茂雄社長(左)が「医療現場の助けに」と東京都医師会に打診。都病院協会が貸与先を募ると、多くの医療機関から申し出があった。その中から永寿総合病院、昭和大江東豊洲病院(江東区)に一式

発熱外来用、第2波に備え

を無料で貸すと決めた。永寿総合病院は医師や患者ら二百人余りが感染し、四十三人が亡くなっている。五月二十六日に外来診療を再開したばかりで、診療体制の立て直しが急務となっている。

貸し出す陰圧テントは高さ三メートル、横五メートル、奥行七メートル。医師の問診や検査所として使える。内部の気圧を低くでき、外部に空気が漏れず、排気する際は専用フィルターを通して除菌する。除菌効果のある次亜塩素酸水を霧状にして充填させたクリンテントも備え、診察を待つ発熱患者の待合所とする。医療従事者の休憩テントも用意し、近く検温ゲートも含め、四点セットで貸し出す。

新型コロナウイルスの院内感染対策では人の動線を感染ゾーンとクリンゾーンに分けることが重要とされるが、建物の構造上、難しい場合もある。屋外に設置できる医療用テントは注目を集めている。都病院協会の事務局によると、感染拡大で外来患者が減り、経営危機に陥っている病院もある。一式の販売価格は約四百万円。協会担当者は「発熱外来の整備は必要だが、余力の

ない病院もある。第二波への備えとしても無償貸与は助かる」と話す。イケガミは感染拡大が懸念された一月末から、厚生労働省の規格を踏まえ、自社で開発を進めてきた。五月十四日から販売を開始。愛知県や大阪府など多くの医療機関から問い合わせがある。池上社長は「医療従事者の皆さんには感謝しかない。テントが恩返しになれば」と話している。

1基を駐車場に

永寿総合病院

永寿総合病院の事務局によると、既に陰圧テント1基を駐車場に設置している。イケガミのテント一式は敷地内の別の場所か院内に設け、臨時の発熱外来として役立てる。

この病院は五月二十六日、約二カ月ぶりに外来診療を再開するなど診療態勢が戻りつつある。これまでマスクや防護服など多数の寄付が各方面から寄せられ、湯浅祐二院長はホームページで「多くの皆さまの励まし、ご支援を頂きましたことに対し、厚く御礼申し上げます」としている。